

はじめに

「健康で長生きしたい」という思いは、世界中の誰もが、世代を超えて持っている。我が国は、この願いを世界に先がけて実現してきた国である。これは、これまでの様々な関係者の努力の賜物であるとともに、世界に冠たる皆保険制度や2000（平成12）年に導入した介護保険制度の果たした役割は極めて大きいものと言える。

しかしながら、世界で最も高齢化が進んだ国となり、今後更に少子高齢化が進むことを展望すると、我々は新たな社会モデルを構築することを求められていると言える。

生涯を通じて健康で生きがいを持って暮らし続ける社会づくりが求められており、高齢期になっても意欲のある方々が活躍でき、地域で皆が支え合える社会を作るとともに、何歳になっても健康で過ごせる環境づくりと支援の仕組みが求められている。

また、医療や介護が必要となった場合にはそれぞれ必要なサービスを受けながらも、住み慣れた地域でなるべく自立して過ごせることを可能としていくことが、今求められている。

世界に目を向けてみると、欧州においては高齢化が一定の時間をかけて進んできたが、韓国、中国や東南アジアなどでは、今後少子高齢化が急激に進むことが予測されている。

我が国の対応はこれらの国から注視されており、高齢化を克服した「高齢化先進国」として、これらの国にモデルを示す役割を担っているのである。

団塊の世代が75歳以上となる2025（平成37）年を見据えて、既に多くの取組みが進んでいる。この白書においては、取組みの方向性と現時点の到達点を、国民の方々にお示しすることを心がけた。

「高齢化」への対応は、確かにチャレンジングな目標かもしれないが、その克服に向けて様々な努力がされていることを、この白書を通じて知っていただければ幸いである。

また、詳細は本文の中で述べるが、人口高齢化を乗り越えていくためには、「地域づくり」が不可欠であり、これは地域住民一人一人の努力によってしかなし得ない。この白書を読まれた方々一人一人が「自分ができることは何か」を考え、地域包括ケアなど地域の取組みに参画されることを切に願っている。

最後に、第1部の構成について順に説明する。

第1章「我が国の高齢者を取り巻く状況」においては、人口構成の変化の状況、高齢者人口の推移と予測といった高齢化に関する基礎的なデータや、世帯構成、健康・栄養の状況、地域のつきあいなど暮らしについてのデータに加え高齢者の就労に関するデータについて見ていく。

第2章「高齢期の暮らし、地域の支え合い、健康づくり・介護予防、就労に関する意識」においては、高齢者だけでなく今後高齢者になる世代について今回の白書のため行った意識調査や他の意識調査を用いて、高齢期にどのような暮らし方を望んでいるのかについて見ていく。

第3章「高齢者を支える医療・介護制度」においては、高齢期を支える医療・介護制度の概略を説明する。

第4章「人口高齢化を乗り越える視点」、この章が第1部のメインであるが、まずはアクティブな高齢者であるための「就労」や「健康づくり」について、次に高齢者を支える

「地域包括ケアシステム」の現時点での到達点と今後の方向性について、最後に、高齢者だけでなく、障害者、児童、生活困窮者など支援が必要とする者に包括的に支援を行う「支え・支えられる共生型の地域社会の再構築」について説明する。